

“ぐるっと松江・堀川めぐり”

松江堀川は松江城の内堀・外堀の総称で、遊覧船（定員 12 名）は約 50 分でお城の回りをひと回りする。船頭さんの多くは地元のシルバーさん（女性の方もいる）なので、沿岸の文化施設の説明も適切で愛情がこもっている。木陰を映した水面に浮かぶ水鳥を指さしながら「この堀も、一時は悪臭プンプンの“迷惑な堀川”だったのです」という説明。高度経済成長期の急激な都市化で多量の生活排水が堀川に流れ込み、ひどい所ではBOD65.1mg/l、ヘドロの滞積も 1m 以上。赤字再建団体だった松江市なので下水道整備も立ち遅れていた。そこで「堀川をきれいにして、遊覧船でも浮かべたらどうか」という市民運動が起こり、建設省（当時）・島根県・松江市による「堀川浄化対策協議会」が設置され、堀川流域の下水道も整備されて、平成 8 年にはBOD 5 mg/l。翌年から堀川遊覧船が登場！



城下町を堪能できる松江堀川めぐり

下水道と浄化用水の相乗効果

松江といえば宍道湖である。夕日の美しさは天下一品で（季節ごとの日没時刻が観光客に配られている）、シジミ・ワカサギ・シラウオなど「宍道湖七珍」も有名だが、この宍道湖の水が堀川の浄化にも一役買っている。建設省では市役所の近くにポンプ場を設置して毎秒 3.6t の湖水を堀川に還流したが、平成 5 年には堀川が「清流ルネッサンス」に指定されたこともあって浄化対策用のポンプ機能も倍増され、これに下水道整備が加わった相乗効果で堀川の水質は一挙に改善された。まさに“松江のシンボル・堀川”の復活だった。これまでに投資された松江市の下水道事業費は約 1,670 億円。平成 17 年 3 月 31 日に周辺 7 町村と合併し、現在人口 19 万 6,000 人、下水道普及率約 91%の松江市だが、「さらに新たな視点での汚水処理計画を進めています」（松江市下水道工務課）ということである。



松江市の日本海側に位置する

「七類地区浄化センター」